

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572213809		
法人名	有限会社グループホーム楽園		
事業所名	グループホーム楽園		
所在地	秋田県山本郡三種町大口字上の沢48番地1		
自己評価作成日	令和元年12月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 秋田県社会福祉士会		
所在地	秋田市旭北栄町1番5号		
訪問調査日	令和2年1月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念:「感謝、信頼、思いやり」スタッフの心得が、詰まっている3つの言葉である。利用者様の命を守る個々の笑顔
を絶やさない様、心がけている。健康管理は当たり前、いかに認知症を理解し向き合い接していくことが大きな
課題と考え個人の性格、生活歴を把握したうえで日々の生活にメリハリをつけ、一日を過ごして頂いている。地域
の方々の協力のもと気楽に出入りできる環境になっているのも当事業所の自慢の一つである。身元との連携主治医
との連携も欠かせない。スタッフ一丸となり、一つの目標に向かい、苦の無い介護を目指している。利用者のやりた
い事、行動したい事を止めることなく自由にやってもらえるよう日々努力して、いる。そのためには、職員のスキルや
人員が必要と考えており、認知症についての基礎知識を学ぶ機会を定期的に作り勉強会を開催するなど職員の教
育に力を入れている事業所である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・八郎湖の北側に位置しており、見晴らしの良い環境にある。
- ・施設内は一つの大きな空間で設計され、死角がなく常に利用者の安全確認ができています。
- ・工夫した採光により、施設内は明るく保たれている。
- ・職員は利用者になつた姿勢で寄り添い、利用者の生活のリズムを重視した介護に取り組んで
いる。
- ・独自の改善シート、アセスメントシートの活用により、利用者の状態を常に職員で共有するこ
とができています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の間 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけてい る (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔 軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護従事者に対しホーム理念は心のよりどころとしても位置付け日々の業務に反映されるように周知している。全職員に運営理念を周知するとともに理解しどのようにしたら実現できるか随時話し合っている。	玄関に理念を掲示しており、開所時から変わっていない。職員は常に理念を意識して利用者と接している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々が収穫した野菜を当事業所へ気軽に足を運んで分けに顔を見せてくれてる。	近所の住民、民生委員、自治会長との交流を通して地域と関わっている。また、自治会費の納入、祭典への参加・寄付、自治会総会への参加により、自治会との関りを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	十分にできていない。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	十分にできていない。	スタッフの都合、入居率の低下等、運営面での事情により運営推進会議を開催できない状態が続いている。今年度は3月の開催に向け調整をしている。	運営推進会議を開催することで、施設の実情を理解していただくことができると思われる。それを今後の行政との関りの強化、地域住民との相互連携に発展することを望む。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者と連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	利用者の重度化及び医行為の必要性等、相談する事態が発生した場合は町当局に出向き、現状を伝えている。その結果、5名の利用者が特養に入所することができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員が身体拘束禁止の研修DVDでの勉強会開催など、身体拘束をしないケアに努めているが、状況を理解できず車椅子からの転落の危険がある利用者に対してはやむを得ず時間を決めて実施している。	DVD等の教材を活用しながら身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、利用者の安全確保のため、やむを得ずベルトで固定することがある。対象利用者に関わる同意書、担当者会議等は確認できていない。	やむを得ない身体拘束を実施する場合、利用者又は家族からの同意を得て、書面にて説明することを望む。また、定期的に現状を確認し、身体拘束解除に向けて話し合うことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを見直し、整備して防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルの見直しと整備をして、制度の理解と必要性を周知できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際の内容説明は当然のこと、以外に利用者様やご家族の求めがあった時には随時対応できる環境を整えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者間からの意見や要望は日頃随時対応できていて、ご家族様からの意見は定期的な面会時の際に応じつつ事が出来ており、運営に反映している。	家族の面会時に話を聞くなど日常的な要望に随時応じており、運営面に活かしている。利用者とは日常的な会話を通して要望・希望等を把握するように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を聞く改まった会議の開催はないが、全職員が日頃の業務の中で意見や提案があるときにはその都度上司に話したり業務改善日記につけたりしながら内容を反映している。	職員が日常の業務に関する意見や提案を随時「業務改善日記」に記入するように心がけている。記載された内容は全職員で共有して、業務の改善及び利用者支援に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	少しでも職員に仕事に対してのやりがいを持っていただくために介護職員処遇改善加算の申請計画を立てている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症ケアに関してその都度、実践の中で職員へ指導したり、認知症ケアに関するDV(Dビデオ研修)による社内研修を行うなど認知症ケアに関する実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	十分できていない		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接の段階で、少しずつなじみが出てくるような対応を心がけて信頼につながるように接している。それと同時に十分なアセスメントを行うことで、利用者様の希望や心身的な状態の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との初回の対面時にご家族の希望やご家族の置かれている状況(環境の問題)など、十分に聞き取りを行っている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員全員は利用者様と対等な立ち位置で支援をしていて、職員に対して何でも話が出る環境作りに取り組んでいる。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方に在住のご家族等に対しても連絡を密にしながら家族との関係を密にしている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方や馴染みの業者さん及び往診の先生などの関係は途切れていないものの、自宅での生活は全くないため、近所との付き合いは全くない。	入所以前から利用していた薬局や医療機関との関係性を大事にしている。古くからの知り合いとの交流も継続できるように努めているが、友人等の面会がほとんどなく、以前と比べて関係性が希薄になっている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	随時に職員が介入して良好な関係が、保たれるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体制はあるものの要請はほぼない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時に十分なアセスメントを元に職員間で情報の共有や対応の検討を実施している。その後も利用者本人の状態に合わせて随時検討をしている。	利用者に合わせて独自のアセスメントシートを使用している。利用者の状態の変化に応じて、申し送り等の内容を再アセスメントに反映している。意思疎通が困難な利用者に対しては、家族の意見を参考にすることが多い。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者の日常の状態は支援経過記録や申し送りノートへ、記録して共有することで全職員間で状態の把握に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用開始時には十分なアセスメントを行うことで把握している。また、独自のシートを利用して心身状態や一日の行動を記録して全職員共有しながら反映されている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な評価を実施しながら介護計画を見直しして、家族や各関係者及びご家族と検討しながら作成している。	担当者が立案した介護計画を全職員で共有し、介護計画に基づいた支援が提供されている。利用者の状態に変化が生じた際は、家族の意見を参考にしながら随時計画を見直している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者本人の日頃の状況は申し送りノートや業務改善ノートへ記録して職員が気付いたことや意見を共有して反映している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	協力医療機関や自治体、各サービス関係機関と連携しながら支援されている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人やご家族の了承の下協力医療機関(医療、薬局、歯科医)と連携されている。	地域の特性として、利用者は入所前から現在のかかりつけ医や薬局を利用している。かかりつけ医は毎月往診に訪れ、緊急時にも対応してくれる。また、歯科医も利用者の要望に応じて随時往診する体制ができている。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所では看護師は勤務していない。医療的対応は全て、協力医療機関への通院や定期往診で対応されている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院受け入れ可能な医療機関への連携室と連携がとれるようにしている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としてターミナルケアは行っていないことを利用契約時に本人やご家族に十分な説明を行っている。また急変時には救急搬送して医師の指示に従い行動を実施している。心身状態が重度化した時には特別養護老人ホームへの入所申し込み等の支援も行われている。	看取り等の終末介護は実施しておらず、入所時に本人や家族に対して十分に説明して理解していただいている。利用者の心身状態が重度化した場合、近隣の特別養護老人ホームへ入所できるように、関係者と連携しながら支援している。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習等の受講や緊急時のマニュアルを整備して全職員周知できるように努めている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	田植えや稲刈りの時期が重なり中々家族の参加が難しい状況ではあるが、年2回の避難訓練を実施されており、消防署立会いで避難訓練では居室の確認が終わったら戸を閉めるようにとアドバイスしてもらっている。	年に2回、管轄の消防署立会いの下、避難訓練を実施しており、そのうち1回は夜間を想定した訓練としている。また災害時のための備蓄も行っており、有事に備えている。	避難訓練を行う際、地域住民は参加していない。今後は地域住民の参加を促し、相互に連携しながら地域内の協力体制を築いていくことを望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員による利用者に対する言動については、職員同士注意したり話し合いをしながら、支援をしている。具体的にオムツ交換の際には扉を閉める等配慮しながら支援されている。	プライバシーに関して配慮や改善等が必要な場合は、随時業務改善日記に記載し、職員間で情報を共有している。同性介助が必要な利用者に対しては随時配慮しており、利用者の要望に応えるように努めている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活に手利用者様が物事に関して選択できる環境を整えている。例えばオヤツの際には何種類かの飲み物について本人に確認し自己決定できるように促す工夫をしている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の一日の流れはあるが、利用者本人それぞれの個別の日課に合わせて、支援されている。例えば食事提供時間の調整など。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容が困難な利用者様や認知症の進行により衣類の着脱や交換が困難な利用者様に対して、介助を行ったり、起床時にはくしで髪をとかしたり、本人の能力を観ながら必要な介助を行っている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理専門の職員を採用して季節を感じる事が出来る献立作りを行っている。誕生会では寿司の出前を取ったり、お花見には外食をしたりと、楽しく食事が出来るように配慮している。食後には茶碗を拭いたり、利用者も職員と一緒にいる。	季節ごとに工夫した献立、行事食、外出時の食事等、利用者が食事を楽しむことができるように支援している。食後は利用者ができる範囲内で後片付けを一緒にするなど、利用者の残存能力の維持に努めている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分補給量を、随時記録して利用者様の状態を全職員が把握している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医や歯科衛生士による入れ歯の調整や口腔ケアを行っている他、毎日のうがいや歯磨きを行うことで、口腔内の状態を保持できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録を観て排泄パターンを把握しながら適切にトイレ誘導に取り組んでいる。	日中は個々の利用者の排泄間隔に応じて、随時トイレ誘導を行っている。おむつをしている利用者に対しても、排泄の訴えに応じてできるだけトイレにて排泄介助を行うように努めている。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師と相談したり、ときには服薬によって便秘の予防に努めている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	随時、入浴可能な体制を摂り、清潔が保持できるように支援している。	入浴は週に2回程度、利用者の希望に応じて随時実施している。失禁等が確認された場合はシャワー浴を行い、常に清潔保持に努めている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様のその時の状態に合わせてベッドの活用や配置場所など変えてみたりと工夫しながら支援がされている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	協力医療機関の意思と連携をとりながら支持を受けながら、服薬内容を把握して事業所管理し、内服させている。また利用者に変化がみられた時には医師にすぐ報告して指示を受けている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割に関して食後の洗い終わった食器拭きやテーブル拭きを行ったり、また歌番組のDVDを観ながら一緒に当時の流行った歌を歌ったりと楽しみが増えるように支援されている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に数回季節に応じた外出を提供している。散歩に関しては天気の良い日には利用者の状態を見ながら対応しているが、最近では散歩の希望がない。	天気の良い日は日常的な散歩を行い、随時気分転換を図っている。年に数回、季節を肌で感じる事ができるように外出を実施している。リゾート列車に乗車するなど、利用者が楽しんで参加できるように工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は、小遣い程度は所持しているが、大金は家族の希望もあり、預かり金として事業所で管理している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から、求めがあった時には電話の使用はできるようにしているが、今のところ希望はない。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所内は全てバリアフリーだが、玄関先は車椅子利用の方への対応としてスロープを設置している	施設内は一つの大きな空間で設計され、開放的な雰囲気が漂っている。工夫した採光により、施設内は明るく保たれ、利用者は自分が好きな場所で過ごすことが多い。排泄介助の際は随時消臭スプレーを使用するなど、快適な空間を保持するように努めている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者本人に声をかけて、ホールで他者と交流できるように声掛けしながら促している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者本人から希望があれば、使い慣れたものを持ち込めるように対応している。	居室内は利用者が過ごしやすいように生活用品が配置されている。利用者が使い慣れた家具や家電製品は自由に持ち込むことができ、自宅となるべく変わらない生活空間になるように支援している。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫されている。		